

## < 『三重大学と連携協定を締結：三重大学と日本技術士会の皆様方へ』 >

池田 和人 技術士（化学・総合技術監理）



### 1. はじめに

この度、「公益社団法人日本技術士会 中部本部」は、「国立大学法人三重大学大学院 工学研究科」と連携協定を締結致しました。私は、この度の連携協定に主担当として関わらせていただきました中部本部幹事の池田和人と申します。三重大学は、周知のとおり、三重県唯一の国立大学であり、三重県の学の側面を支える総合大学です。今回の連携協定を契機に、双方がともにタッグを組んで「ウィンウィンの関係」を構築維持することができれば、双方の利点の融合が相乗的に実現され、魅力ある社会貢献ができるのではないかと思います。三重大学の皆様方をはじめ、この度の連携協定にご尽力下さいました皆様方に心より感謝申し上げます。

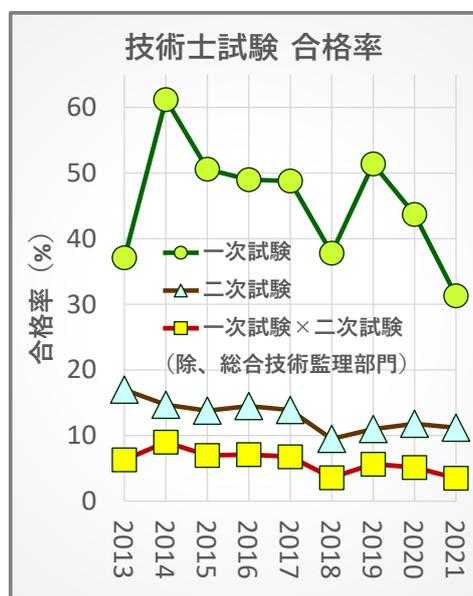
### 2. 「ウィンウィンの関係」を維持するために

互いに「ウィンウィンの関係」を末永く維持するためには、今ここで、「連携の意義」をとともに共有する必要があります。そして、この連携がもたらす「将来の姿」をとともに想像する必要があります。本報では、まず三重大学の皆様方に向けて、技術士資格と公益社団法人日本技術士会を紹介させていただいた後、今回の連携の意義と将来像について、私見を述べさせていただきます。今後、日本技術士会は、今回の連携協定を双方の飛躍につなげるべく努めて参ります。

### 3. 三重大学の皆様方へ（技術士と日本技術士会）

技術士は、技術士法に基づく国家資格でございます。技術士の国家試験に合格し、技術士として登録しますと、技術士の称号を用いて仕事を行うことが国家から認められます。所定の教育課程を修了した JABEE 認定者は、「一次試験合格と同等」と認められますが、一般的には、技術士になるために、一次試験と二次試験（筆記試験＋口頭試験）に合格する必要があります。また、技術士には実務能力が求められることから、二次試験の受験までに所定期間の実務経験が必要になります。ここ数年の技術士試験の合格率は右図のとおりでございます。三重大学の学生の皆様方が社会に出られてから、一つの節目として技術士を目指していただけることを願っています。

一方、日本技術士会は、技術士制度の普及・啓発を目的とする公益社団法人で、正会員の技術士と準会員の修習技術者（一次試験合格者＋JABEE 認定者）により構成されています。2022年3月末時点で18,960名の正会員・準会員が属しており、その内訳は、正会員が15,823名、準会員が3,137名でございます。日本技術士会には、1つの統括本部と関東甲信地域の各県支部そして8つの地域本部がございます。日本技術士会は、講演会や交流会など、さまざまな行事を主催しており、これが自らの研鑽や人的ネットワーク作りなどに役立てられています。



#### 4. 連携の意義：人材バンクとして貢献する

日本技術士会は、この度の連携を契機として、三重大学に可能な限り貢献したいと考えています。日本技術士会には、長い実務経験と高度な専門知識をベースとした社会に役立つ人材が多数属しています。そして、日本技術士会には、右図に示すとおり、各種工学分野だけでなく、農業・森林・水産まで、21部門の幅広い分野の人材が属しています。三重大学の学の拠点である三重大学と日本技術士会が連携すれば、日本技術士会は、「社会に役立つ人材バンク」として、三重大学そして地域社会の発展のために網羅的に貢献することができます。三重大学の皆様方に、是非この日本技術士会を活用していただきたいと思っています。

##### 技術士 部門一覧

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1. 機械部門    | 11. 衛生工学部門    |
| 2. 船舶・海洋部門 | 12. 農業部門      |
| 3. 航空・宇宙部門 | 13. 森林部門      |
| 4. 電気電子部門  | 14. 水産部門      |
| 5. 化学部門    | 15. 経営工学部門    |
| 6. 繊維部門    | 16. 情報工学部門    |
| 7. 金属部門    | 17. 応用理学部門    |
| 8. 資源工学部門  | 18. 生物工学部門    |
| 9. 建設部門    | 19. 環境部門      |
| 10. 上下水道部門 | 20. 原子力・放射線部門 |
|            | 21. 総合技術監理部門  |

#### 5. 連携の意義：知の融合を実現する

少し話が飛びますが、「良い仕事」をするためには、日々の業務だけでなく、瞬間的なひらめきやイメージが必要でございます。極論を言えば、「仕事」とは、ある瞬間的なひらめきやイメージを実行することだと思えます。人間の「右脳」は感覚的なひらめきを生み、人間の「左脳」は論理的な手法を思考すると言われていています。そして、人間が仕事をする上では、「右脳」と「左脳」で情報が頻繁に交換されると言われています。端的に言えば、「仕事」とは、「右脳でひらめき、左脳で実行する」ことだと思えます。

この度の連携を契機に、「学問を専門とする三重大学」と「実務を専門とする日本技術士会」が人的に交われば、そこに「知の融合」が生まれ、双方の「右脳」に何かがひらめくでしょう。そして、それが社会を大きく変えることになるかもしれません。今後、日本技術士会は、互いの人的交流の場を積極的に設けて参ります。



#### 6. 将来の姿：連携を深める

連携が深まれば、互いの組織の面々が友人として気兼ねなく親交を持てるようになるでしょう。そして、双方の面々がたまに美味しいお酒を飲める仲になれば、そこに新たな人脈が生まれ、社会の人的資源不足の悩みを解決できるかもしれません。三重大学の皆様方が教員・講師や産学官民連携の人材を必要とする時は、互いの付き合いから生まれた人脈を利用することもできますし、日本技術士会という組織を使って会員から広く人材を募ることもできます。日本技術士会は、これからも「人と人とのつながり」を大切にして参ります。そして、互いの連携が持続的に深まりますよう努めて参ります。最後に改めまして、この度の連携協定のために並々ならぬご尽力を下さいました皆様方に心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。